

友愛 8月号 — ケリー・パーカー

友愛
特定非営利活動法人ワールド・フレンドシップ・センター機関紙

WFC での経験
(2018年7月6日～8月12日)
ケリー・パーカー

雨のなかの到着

私は7月6日に広島に到着しましたが、その時は市内が豪雨の真ただ中でした。高速道路は通行止めで、バスも電車も走らず、空港ホテルは完全に満室でした。幸いにも清水美喜子さんと清水孝宣(よしのぶ)さんがこの大変な状況を手助けしてくれました。彼らは、私の為に空港ホテルに近いコテージを予約することができましたので、私は空港で一晩を過ごさなくて済みました。コテージは4人家族用のものなので、私一人には少し広すぎました。でも、私はそれを最大限に生かして、日本までの長旅の疲れをゆっくり癒しました。

翌日の朝、空港ホテルのロビーに移動しました。バスはなお動かず、WiFiと電話サービスも不通になってしまいました。ホテルへ食糧を運ぶトラックさえ到着せず、食べ物は何もありませんでした。結局、彼らは空港に私をシャトルバスで送り迎えしてくれたので、食べ物とWiFiにたどり着くことが出来ました。そこで、私は美喜子さんともっと連絡をとることができました。どうやら、空港ホテルにもう一晩宿泊する必要があるということのようでした。幸いにも、このとき、私のための一部屋があいていました。時差ボケがあったので、その夜は5時近くにはもう眠くなりました。

翌朝、4時近くに目が覚め、やることもあまりなくてたくさんの時間がありました。(WiFiも使えず、強い雨で散策もできなかったのです。)結局、11時頃まで本を読んだり、いくつかの食品を得ることに美喜子さんともう一度連絡を取るために空港行のシャトルバスに乗りました。そこにいる間に、空港が市内への別ルートを設定したということを見ました！それは、東広島行のフリーバスで、そこから新幹線に乗り換えて、広島駅に行けるというものでした。美喜子さんは、このルートは大丈夫だと言ってくれました(一連のeメールで、日本語サインの写真を彼女に送り、私が乗ってもいいルートかどうかを返信してもらっていました)。それで、私は大急ぎで荷物を取りに行き、東広島行のバスに乗りました。それは、日本の農村地域を通り抜けるととても素晴らしいバス旅行で、昔の伝統的な家々と青々とした稲田を通過しました。



美喜子さんと孝(よし)さんと広島駅で会い、ワールド・フレンドシップ・センターに車で送ってもらいました。彼らに再び会えたこととWFCについてに到着できたことは、とても素晴らしかったです。

懐かしい顔と新しい友達

WFCについてから、館長のバーブとダニー、そして彼らのお嬢さんであるソフィーも一緒にお会いしました。彼らは大歓迎してくれて、私はすぐにくつろぎを感じました。広島に7月6日に着いたといっても、多くの助けを借りてセンターにたどり着いた7月8日までは到着していませんでした。7月8日は日曜日でした。その日は館長にとっては大切な日だということが分かりました。毎日曜日、彼らは“ドクター・マーティン”と呼ばれるテレビショーにはまって何シリーズも見ながら、夕食にポップコーンとリンゴを食べます。彼らは速やかに彼らの習慣の中に私を迎え入れてくれましたが、結果的にはそれは待ち望んでいたリラックスできる夕べなのでした。それ以降、私たちは食後、毎晩一回放映分を観ていました。

私がWFCに着いた翌日の7月9日、ピース・クワイアの行事が中止になったので、そのかわり、皆さんが昼食の為にWFCに来られました。これは、私にとっては3年前にお会いしたことのあつ素敵な人々や、初めての人々とお目にかかる素晴らしい機会でした。私は、山根美智子さんのルカという名の可愛い犬について知りました。そして、美喜子さんが皆さんに、私の名前を正しい発音に訂正してくれました。渡辺朝香さんが三村庸子さんのピアノ伴奏により、いくつかの歌を指導してくださいました。

ダニーの英語クラスのうち、あるクラスはジョン・ハーシーの本『ヒロシマ』を読んでいました。私もこの本を同じ時期に読んでいたので、数週間そのクラスに加わりました。クラスの人たちをもっと知るといふことは、本当に素晴らしかったです。

時たま、私はいくつかの他の英語クラスへも参加しました。一度、ダニーとバーブが大阪に行ったとき、ソフィーと私が英語クラスを指導しました。それは、木曜日クラス(自称、タンジェンシャルクラス)で、突然話題を変え始める会話をとても楽しみました。そして、私は原爆養護ホーム、むつみ園のために用意していた私の天文学クイズをするために、私の日本語のスピーチも練習しました。

パン屋さんと喫茶店

ソフィーは彼女の修士論文に専念していましたので、私達はしばしば喫茶店で勉強するために出掛けて行きました。このことは、私の日本語の会話とヒアリング力を幾分使える機会となりました。私達はまた、パン屋さんに行くのが好きで、度々訪れました。日本のパン屋さんは、アメリカのパン屋さんよりもっと心躍らせず - カレーを詰めたパンを手に入れられる所が他にあるでしょうか？！

むつみ園での天文学

バーブとダニーが大阪に行った日、美喜子さん、美智子さんそして庸子さんが私をむつみ園に、入居者慰問の為に連れて行ってくれました。私は、次のような天文学に関連したクイズを持って行きました。

1. 太陽に最も近いのはどの惑星でしょうか？
A). 水星 B). 金星 C). 木星
2. どちらが大きいでしょうか？
地球 又は 海王星？
地球 又は 月？
地球 又は 太陽？

3. 月の表面を歩いた最初の人は誰でしょう？
A).バズ・オールドリン B).ニール・アームストロング C).トーマス・エジソン
4. 正しいか間違いか？ :月は地球に潮の干満を引き起こす。
5. 航行に使われる北斗七星が指す星は、次の中のどの星でしょうか？
A). 太陽 B). 恒星(おうし座) C). 北極星

皆様は、特に月に対する質問が好きみたいでした。広島のカは、潮の干満で非常に著しく変わるの、多くの人達は月には非常に関心があり、かなり知識があるようです。

いつものように、しんちゃんはむつみ園では人気者でした。朝香さんがいくつかの歌を指導され、私はその月にお誕生日を迎えた皆様に、お花をプレゼントするのを手伝いました。

長崎ネコとその他の長崎での出来事

7月21・22日と、美喜子さんと美智子さんと一緒に長崎に旅行しました。そこで、美智子さんの友達の一人、山川剛先生にお会いし、長崎を案内していただきました。私達は、長崎ちゃんぽんレストランに行き、そこの人々に人気のあるメニューを注文しました。それから、長崎原爆資料館と国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館に向かいました。長崎資料館と広島資料館を比べるのはとても興味がありました。そして勿論、それは非常に悲しくて心打たれる経験でもありました。その上、私達の英語ガイドだった、丸山佐知子さんは、とても親切でした。



左から 山川先生、美喜子さん、私、丸山さん、美智子さん

資料館の後、山川先生の奥様が、私達が泊まっていたカトリックセンターに来てくださいました。彼女は長崎の被爆者なので、彼女と彼女の家族の話をして下さいました。幸い、彼女の家族のほとんどは、爆心地からほんの1.4km離れたところに住んでいたにもかかわらず、生きて脱出することができました。部屋は彼女(その時は小さい子供)や彼女のお姉さん、お母さん

の上に崩れ落ちましたが、幸いなことに、彼女の兄弟の一人と彼女のばあやさんが崩壊した建物から皆を掘り出すことができました。その弟は、一か月後に放射線障害で亡くなりましたが、彼らの家族はその多くが生きていたので、まだ幸いだと考えられました。

長崎に滞在中に、私は長崎ネコについて知りました— 何だかしっぽが曲がっている野良ネコ。私達はその街で過ごした2日間に、多くのこんなネコを見かけました。カトリックセンターがそのネコたちの為に食物を置いたので、何匹か近くに集まってきたのでしょう。

長崎での2日目、私達は長崎平和公園で午前中を過ごしました。そこでは今平和公園となっているところに存在していた刑務所、大きな丘の下の避難トンネル、そして今公園に散在する記念碑などについて学びました。それらの多くは、放射線にさらされて殺され、苦しんだ人たちの偲んで、他の国々から寄贈されました。幾つかは、水を求めて泣き叫んだ人達に水を捧げる平和の泉などでした。



平和公園ツアーの後、長崎市永井隆記念館を訪問しました。永井博士は、長崎では有名で、長崎での最初の名誉市民でもあります。彼は、自身がX線による被曝を認めた放射線科医でした。というのは、彼は、たとえX線フィルムが極めて乏しくなっていたにしても、彼の職務を辞めるのを拒否しました。ここから、彼はあと3年の命と予測される癌を発病しました。原爆が投下されたとき、彼はもっと放射能にさらされました。地域では、彼の病気がひどくなって歩けなくなった時、彼が滞在するための二畳の家を建てました。彼が小説を書いたのは、そこでした。彼の小説は、原爆投下の恐ろしさへの気づきを広めながら、平和への呼びかけでした。私達は、長崎にいる間に、永井博士の小さな家一如己堂、または“己の如く隣人を愛せよ”を訪ねることが出来ました。長崎市永井隆記念館は、最初は原爆投下後の長崎の子供たちの為に、永井博士がつくった図書館でした。今日もなお図書館ですが、記念館の要素をもおまけに持ちあわせています。



如堂己

長崎市永井隆記念館に行った後、岡まさはる記念長崎平和資料館に歩いて行きました。この資料館は京都の平和ミュージアムのように小さかったです。

そこでは、第二次大戦中の日本の武力侵略行為の幾つかの事実が展示されています。それは、さらなる別の悲しい資料館でしたが、そのことについて多くを学んだのは初めてでしたので、私にとっては、驚くべきことでもありました。

広島へ帰る時、博多行きの途中で雷雨のため列車がストップし、2時間余り立ち往生させられました。けれども美智子さんと美喜子さんは、そんな困った状況にもかかわらず、とても快活にふるまっていましたが、そのうちWFCに帰ってきました。

オリアンダー・プロジェクト(そして他のWFCゲスト)

ワールド・フレンドシップ・センターが果たす一つの役割は、ゲストを宿泊させることです。大抵これらのゲストは、世界中の国々からです。毎朝、私達はゲストに朝食を提供します。それは彼らの話に耳を傾け、彼らの国々や文化についてより学べる素晴らしい時間でした。私がWFCにいた間に、フランス、ドイツ、オーストラリア、レユニオン島、イタリー、北米、そしてベルギーからのゲストがありました。

オリアンダー・プロジェクトは、平和について学び、いかに彼らのカリキュラムにそれを取り入れるかを学びに広島に来た、中東と北米からの先生たちのグループでした。その内、8人がWFCに泊まり、その他はホテルに泊まりました。彼らがここにいる間は非常に忙しかったですが、それは極めて興味深いことでもありました。特に朝食は、すべての人が彼らの国について分かち合いましたので、素晴らしかったです。そして、サミア(モロッコから)は、試みようとするすべての人の為にいくつかの中東の料理を度々用意していました。



私は、サミアは他の人より腕がいいとわかりました。なぜならば、彼女は私とWFCインターン生の有田亮君に彼女を食料品店に連れて行ってほしいと頼みました。私たちは彼女が必要とするものすべてを見つけ出すのに奮闘しました—彼女は、私に何を見つけてほしいか英語で伝えていて、それから、私はそれを日本語のラベルが読めて、彼女が頼んだものを見つけられる亮に伝えました—しかし終に、私達は彼女が考えていた料理を作るために十分なものを見出しました。

オリアンダー・プロジェクトがワールド・フレンドシップ・センターで全部の部屋を使っていたので、私は約1週間、美喜子さんと孝さんの家に移りました。私は3年前、ワールド・フレンドシップ・センターの50周年記念の為に訪れた時、家族と一緒に彼らの家に滞在しました。だから、再び招待されたことは素晴らしかったです。彼らと肩を並べ、夕方には会えることも、とても良かったです。孝さんは、朝、私がWFCに朝食の準備を手伝いに行く前に、私のためのコーヒーを入れてくれ、美喜子さんには、他の料理のアドバイスと一緒に、寿司米をいかに正しく作るかを教わりました。彼らは、8月6日のための私のスピーチの練習をも手伝ってくれました、特に日本語の部分。そして全体的に言えば、彼らと一諸により多くの時間を過ごすことは、非常に素晴らしかったです。



8月6日：忙しい日と沈む灯籠

8月6日は、ワールド・フレンドシップ・センターとのとても長い日でしたが、私はそのためにそこにおれた事が、非常にうれしいです。その日は、早朝に平和公園で行われた広島平和記念式典から始まりました。50,000人以上の参列者があったと聞いています。私達には、慰霊碑に捧げるお花が与えられ、それから、WFCの他のメンバーの近くに席を見つけました。運悪く、太陽

が式典中に樹木限界線の上に昇り、長い式典の間に私達に直射日光が当たりました。そのため、とても暑かったです。私達の座席から式典の様子はあまりよく見えませんでした。いくつかのスピーチにはいまだにすごく感動し、直接参加できたということが嬉しいです。



一度、ワールド・フレンドシップ・センターに帰り、短いフィルム“原爆の爪痕”を観て、米吉喜代子さんの被爆者証言を聴きました。



集合写真 藤井さん(前列左)、米吉さん(前列中央)と

午後、私達は平和公園の供養塔に集合しました。そこではたくさんのスピーチとピース・クワイアによる歌を聴きました。私のスピーチをした以外は、木陰にいたので、実際にはむしろ涼しく、リラックスしていました。

そこでの儀式のあと、バーバラの記念碑に移動し、そこで他の短い儀式を行いました。もう一度、私は短いスピーチを行いました。そして私達はいくつかの歌を歌いました。この後、川に流す灯籠に平和への願いを書いて組み立てました。



私達が川に着くまでに、外は暗くなり始めていました。川に浮かぶ灯籠は、ものすごく美しく、写真ではその本当の美しさを見せることはできません。けれども、私の灯籠を水に浮かべた時、それは傾いたかと思うと転覆してしまいました。私がそれを引き戻しまっすぐな状態にするには、未だ十分近くに存在していました。でも、ローソクが消えてしまいました。2度目、灯籠は解き放され、再びひっくり返る前には少し遠くになり、水の下に押し流されてしまいました。けれども、これに関して孝さんは、素晴らしい見方をしました—多分私の灯籠は、実際に海に到達するでしょう、というのは、それは他の灯籠みたいに引き上げられないから。





演劇

8月6日の直後には、生活は大分静かになりました。8月7日、天野達志さんが『父と暮らせば』の一人芝居を演じるためにWFCに来ました。それは非常にジーンとさせられ、天野さんは、観客に彼が娘なのか、父なのか常にはわかるように、2人の特徴をたやすく切り替えることができました。演劇自体は、彼女と親しかった多くの人達が原爆によって殺されたあと、生き残った者としての罪悪感のようなものを処理しなければならない娘についての話でした。

8月10日、“広島の子孫たち”と呼ばれる別の公演を観ました。田城美怜さんや彼女の子供たちがその中で演じ、彼らは素晴らしい役割を果たしました。演劇そのものは、多数の被爆者の話を語り、演技者は数世代にも及びました。

宮島

8月9日、美喜子さん、バーブ、そして私は、ついに宮島に抜け出すことができました。私達はしばらくの間、出かけようとは思っていましたが、私の全訪問の間は非常に暑かったので後まわしにしていました。その日は、なお暑かったのですが、有り難いことに、時折曇りでした。私達は、弥山の頂上近くまでケーブルカーに乗り、それから残り道を登り展望台でおにぎりを食べました。そこからの景色は、周りの多くの島々を見渡せる壮観な眺めでした。



アイスクリームへの思いが、私達にケーブルカーへの長い徒歩道を帰り続けさせました。その時まで、太陽は十分雲間から現れていましたので、とても暑かったです。ケーブルカーを降りたあと、大聖院への私達独自の道を見つけました。大聖院では、多くの帽子をかぶったユニークなお地蔵さんたちを見ました。88か所の各々のお寺からのお砂ふみをして、巡礼旅もしました。そして、お寺への石段近くで、1匹の猿をみました。





その他の宮島の写真



サル 写真中央





おわりに

私はこの夏、ワールド・フレンドシップ・センターで、このようなすばらしい広島での経験をしました。皆さんに再びお会いすることが出来、多くの新しい人々にもお会いできたことは素晴らしかったです。平和と広島と長崎の原爆投下による影響について私が学んだことを広めるのに、この話を私の本国での家族や友人に持ち帰ることでうきうきしています。私は、再び訪れてワールド・フレンドシップ・センターと共に働き続けることを本当に望んでいます。私の滞在中に非常に多くの友達ができました。そして、本当に皆様方と連絡を取り続けることを望んでいます。この機会を、本当にありがとうございました。

翻訳者：清水美喜子、山根美智子

— あいさつ 8月6日—

ケリー・パーカー

皆様こんにちは。ケリー・パーカーです。

今日、皆様の前でお話ができることはとても光栄です。

バーバラ・レイノルズは私のひいおばあさんですが、私が生まれる前に亡くなったので、一度も会ったことはありません。

3年前、ワールド・フレンドシップ・センターの50周年記念行事があり、それに出席するために、私は家族と共に初めて広島にきました。

私のひいおばあさんは、ワールド・フレンドシップ・センターを創設しました。でも、この広島を訪れるまでは、彼女のことや彼女の平和に関する努力などは、あまり知りませんでした。

その時、私達家族は2週間だけ広島に滞在したのですが、その2週間は、私の人生を大きく変えるきっかけとなりました。

被爆者のお話を聞いた時には、核兵器の恐ろしさに気が付きました – そして二度とそれを使つてはならないと思いました。

アメリカに帰ってから、私は広島に戻ってきて、平和への願いと核軍縮のためのメッセージを広げるお手伝いしたいとずっと思っていました。

やっとこの夏、私はボランティアとして6週間、ワールド・フレンドシップ・センターに戻って来るチャンスを得ました。

これは、私のひいおばあさんについてと、平和教育について、もっと学ばせていただけるいいチャンスなのです。

ワールド・フレンドシップ・センターは、彼女の将来を見据えた展望、平和擁護、そして被爆者とその体験談の認識を広めることを53年間も続けてきております。

私のひいおばあさんや、平和への究極目標を広める努力をなさっている人たちは、毎日私に希望を抱かせてくださっています。

非常に多くの暴力行為は、それが引き起こす影響を全く知らない人々によって引き起こされるのだと、私は信じています。

ひいおばあさんは、被爆者のお話やスケッチを通して、罪の意識を引き起こさせようという意図ではなく、戦争の現実をみてもらおうと、核兵器や放射能の起こす悲劇を、人々に理解させることに尽くしてきました。

多くの人々が、平等と共感というレンズを通して、戦争や核兵器の起こした無残な出来事を見れば、世界は、もっと平和になれるでしょう。

バーバラ・レイノルズの残した夢は生き続け、私の生き方を変えたように、変化し続けるでしょう。

今日のこの行事にお出かけくださって、本当にありがとうございました。

翻訳者：清水美喜子



Copyright © NPO World Friendship Center 2018 All Rights Reserved
無断転載、複製を禁ず